

表紙等・目次

権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	143
発行年	2007-08
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005178

アジ研 ワールド・トレンド

発展途上国の明日を展望する分析情報誌

8

2007

第143号

特集●

「法と開発」研究

フォト・エッセイ●

サクッデイ——最後のムンタワイ族——



1	巻頭エッセイ 「開発法学」事始	安田信之
---	-----------------	------

特集 「法と開発」研究—途上国問題への新たな学問的貢献

2	●特集にあたって—なぜ今日「法と開発」研究なのか	山田美和・佐藤 創
4	●移行・市場経済化における法整備支援	金子由芳
8	●「法」と「開発」の関係—法制度改革支援は正当化されるのか	山田美和
12	●「法と開発」研究と開発経済学の交差点—学際的研究の方向性は？	佐藤 創
16	●法制度改革支援の倫理	ヴェロニカ・L・テイラー
22	●二人の先学と法整備支援の理論的諸問題	鮎京正訓
26	●人間の安全保障のための「法と開発」研究	佐藤安信
30	●「法と開発」研究におけるエスニシティ試論—チュア論文を題材に	初鹿野直美
34	●「法と開発」研究における障害者問題	小林昌之
38	●日本発「開発法学」の理論構築の試み	松尾 弘

43	連載／スラウェシ市民通信 第6回 バワカラエン山の守り人、ダエン・マンドン	アクバル・アブ・タリブ
----	--	-------------

47	フォト・エッセイ サクッデイ—最後のムンタワイ族—	久保真人
----	----------------------------------	------

51	カルチャー・ショック	
	外国人のみた日本 私の二回目の日本生活	全 濟九
	日本人のみた外国 コピー王国のリスク管理について	水野順子

53	ブックシェルフ	
	新刊紹介／金立三著・花房征夫訳『韓国経済の奇跡—礎を築いた民間経済人の熱き思い』	渡辺雄一
	新刊紹介／山本一巳・山形辰史編『国際協力の現場から—開発にたずさわる若き専門家たち』	山形辰史
	レファレンスコーナー／南アジアの輝ける島—スリランカに暮らす人々を知る—	坂井華奈子

56	アジア各国・地域 経済統計	図書館資料サービス課
----	---------------	------------

60	研究所だより	
----	--------	--

◆表紙写真：高層ビルと最高裁判所。シンガポール（写真提供：アマナイメージズ、撮影：安部光雄）

◆本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、日本貿易振興機構あるいはアジア経済研究所の公式見解を示すものではありません。

アジア動向年報 2007

650 ページ 6,615 円 (税込み価格)



2006年のアジア諸国・地域の主要経済指標

2006年のアジア——資源をめぐる政治、経済、外交の新展開—— 重富真一

●主要トピックス

アジアのFTA——錯綜する域内外FTAと広域FTAの萌芽—— 岡本次郎
 ASEAN——共同体構築への試練—— 須藤季夫
 アメリカとアジア——揺れ動くアメリカのアジア外交—— 村田晃嗣

●各国・地域の動向

大韓民国／与野党再編の本格化 奥田聡・渡邊雄一
 朝鮮民主主義人民共和国／核実験の実施と6カ国協議の再開 文浩一
 モンゴル／政治混乱のなかで大モンゴル国建国800年を祝う 鯉淵信一
 中国／「調和のとれた社会」実現への模索 松本はる香・今井健一
 香港特別行政区／公民党の結成と民主派行政長官候補の擁立 竹内孝之
 台湾／スキャンダルを潜り抜けた陳政権 竹内孝之・池上寛
 ベトナム／新指導部が発足し、WTO加盟を達成 寺本実・藤田麻衣
 カンボジア／フンシンペック党の分裂 初鹿野直美
 ラオス／貧困問題解決への強い意思を示した新指導部 山田紀彦
 タイ／タクシン体制崩壊 青木まき・重富真一
 フィリピン／国家非常事態を一時宣言 鈴木有理佳
 マレーシア／長期開発政策が出揃う 梅崎創・中村正志
 シンガポール／第2次リー・シェンロン内閣始動へ 中村みゆき
 インドネシア／安定のなかの停滞 川村晃一・佐藤百合
 ティモール・レステ(東ティモール)／危機の年——暴動とアルカティリ首相辞任—— 水野久美子
 ミャンマー／我が道を行く——統治20年を目指す軍事政権—— 工藤年博
 バングラデシュ／BNP政権の退場——「失われた5年間」が残したもの—— 長田満江
 インド／折り返し点をむかえたマンモハン・シン政権 近藤則夫・島根良枝
 ネパール／第2次民主化運動と国王政治の終焉 水野正己
 スリランカ／停戦合意、事実上崩壊 荒井悦代
 パキスタン／継続する国内テロとの戦い 小田尚也・牧野百恵
 アフガニスタン／泥沼化する国内情勢 萬宮健策
 中央アジア諸国／安定と動乱——さらなる政治変動への予兆—— 湯浅剛
 ロシア極東／東部フロンティアに注目するプーチン政権 望月喜市

(各国・地域の動向には、それぞれ「重要日誌」「参考資料」「主要統計」を掲載)

●使用した主要紙誌および通信・放送

* 上記価格は消費税込価格です。

* ご購入・お問い合わせは、研究支援部出版企画編集課 (出版物販売=Tel: 043-299-9735 Fax: 043-299-9736
 e-mail: syuppan@ide.go.jp) まで。

- 研究所だより -



▼ 出版物のご案内

● 情勢分析レポート

* No.6 吉田栄一編 『アフリカに吹く中国の嵐、アジアの旋風』 途上国間競争にさらされる地域産業』

一、五七五円(税込)

* No.7 竹内孝之著 『返還後香港政治の10年』 一、〇五〇円(税込)

● 研究双書

* No.559 今泉慎也編 『国際ルール形成と開発途上国—グローバル化する経済法制改革—』

四、四一〇円(税込)

● アジ研選書

* No.6 小島麗逸・堀井伸浩編 『巨大化する中国経済と世界』

三、九九〇円(税込)

* 問合せ・申込先 研究支援部出版企画編集課(販売担当直通)

TEL:043-299-9735

平成19年度発展途上国研究奨励賞の決定

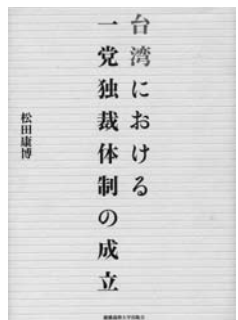
昭和55年に創設された「発展途上国研究奨励賞」は、発展途上国に関する社会科学およびその周辺分野における調査研究の優れた業績を評価し、この領域における研究水準の向上に資することを目的としています。今回選考の対象となったのは、平成18年1月から12月までの1年間にわが国で公開された図書、論文など発展途上国の経済、社会などの諸問題を調査、分析したものです。

平成19(2007)年度は下記の作品が選ばれました。

- 受賞作品 「韓国の教育と社会階層 — 「学歴社会」 への実証的アプローチ」
- 著者 有田 伸
(東京大学大学院総合文化研究科准教授)
- 出版 東京大学出版会



- 受賞作品 「台湾における一党独裁体制の成立」
- 著者 松田 康博
(防衛省防衛研究所主任研究官)
- 出版 慶応義塾大学出版会



〈最終選考対象作品〉

最終選考の対象となった作品は受賞作のほか、次の作品でした(著者五十音順)。

- 今井 健一、渡邊 真理子著 「企業の成長と金融制度(シリーズ現代中国経済4)」(名古屋大学出版会)
- 加茂 具樹著 「現代の中国政治と人民代表大会—人代の機能改革「領導・被領導」関係の変化—」(慶応義塾大学出版会)
- 山本 博之著 「脱植民地化とナショナリズム—英領北ボルネオにおける民族形成—」(東京大学出版会)

FAX:043-299-9736

▼ 最近の主な海外来訪者

* フランス Ⅱ Dr. Yveline Lecler (ルミエール・リヨン第二大学政治学院東アジア研究所教授) Ⅱ 9月7日
* ベトナム Ⅱ Dr. Tran Duc Cuong (ベトナム社会科学学院副総裁) 他5名 Ⅱ 6月20日

▼ 次号の特集は「アジア通貨危機から一〇年」です。

『アジア経済』 第48巻第8号

8月15日発売 1,050円(税込)

発展途上地域に関する理論機関誌
論文、研究ノート、学界展望、書評、紹介等掲載

ご購入・お問い合わせは
出版企画編集課(出版物販売)まで
(電話:043-299-9735 FAX:043-299-9736)

『アジ研ワールド・トレンド』 第13巻第8号 通巻143号

2007年8月1日発行

編集・発行

日本貿易振興機構 アジア経済研究所
研究支援部

〒261-8545 千葉市美浜区若葉3丁目2番2
TEL 043(299)9735 FAX 043(299)9736

http://www.ide.go.jp

印刷

広研印刷株式会社



—アフリカ熱帯アート—

「時と人生の友」(アクリル)

アーティスト エリア・スガ (ウガンダ・エンテベ)

CAAS所蔵、吉田栄一撮影

ビクトリア湖畔エンテベで暮らすスガの静かな創作環境を彩るモチーフが散りばめられた3部作の1つ。

庭を駆けるニワトリ、教会での音楽活動、女性、自転車、動物の間にあるのは時の流れを表わすかのような渦巻のデザイン。それは彼と作品との静かなる格闘を表わすかのようなようである。